

time-away 構文の特徴について

—意味的特徴を中心として—

長崎大学 言語教育研究センター 西原 俊明

1. はじめに

英語には、(1) に示す time-away 構文が存在する。

- (1) a. We danced the night away.
b. We danced away the night.

この論考では、2節において time-away 構文の基本的統語的・意味的特徴をみる。3節では、先行研究事例として Jackendoff (1997, 2002)、Takami (2007)、Nishihara (2010)の分析を概観し、その問題点を指摘する。4節では、大規模コーパスである Corpus of Contemporary American English (COCA)、British National Corpus (BNC)、及び The Corpus of Global Web-based English (GloWbE) などを用いて新たな言語事実を指摘し、time-away 構文の意味的特徴をとらえる代案を提示する。¹

2. time-away 構文の基本的特徴

time-away 構文の基本的な統語的・意味的特徴は、次に示す通りである。先ず、統語的特徴から概観する。(1) に示したように、time-away 構文は、動詞に後続する形式として [time NP] [away], [away] [time NP] のいずれかの形式をとる。²また、(2) から明らかのように、この構文に用いられる動詞は自動詞であり、time NP は動詞に厳密下位範疇化された要素ではなく、away の存在によって、厳密には、構文によって認可される要素である。

- (2) a. Frank drank the night away.
b.*Frank drank scotch the night away. (Jackendoff (2002: 81))
c.*Frank drank the night.

三番目の特徴として、time NP には受動化や重名詞句移動などの適用が可能であり、目的語と同じような振る舞いを見せることが挙げられる。³ この事実を(3)が示している。

- (3) a. In the course of the summer, many happy evenings were drunk away by the students before they finally realized there was serious work to be done.
b. Stan drank away the entire afternoon of his 50th birthday.
(Jackendoff (2002: 81-82))

次に、time away 構文の意味的特徴を見ることにする。(4)-(5) から明らかのように、time NP は、時間的指定を受けなければならない要素であり、time-away 構文に含まれる行為は、時間的縛りを有する行為である。

- (4) a. ?/?? John danced the time away. (西原2010: 191)
b. John danced the entire night away.
(5) a. It took a month for Louis and Clark to finally get to dance two blissful hours away.
b.* It took a month for Louis and Clark to finally get to dance away.
(Croft and Cruse (2004: 246))

Croft and Cruse (2004) によれば、It take(s) NP_{time} 構文に含まれる行為は、時間的な縛りがあることを示している。(5 b)は、行為の連続を表す away を含む文であるが、この文は不適格である。(5 a)(5 b) の適格性の差異は、time away 構文の場合、動詞で表されている行為に時間的縛りがあるので、It take(s) NP_{time} 構文と共起できることを示している。

別の意味的特徴として、time-away 構文に生じる動詞の意味自体には、「～して時間を過ごす」という意味は存在しないが、時間が経つことを表す away の存在によってこの意味が生じるという特徴をもつ。Jackendoff (2002) は、意味的に(6 a)は(6 b)と同じであることを指摘していることから、構文として「～して時間全体を過ごす」という意味を表すことがわかる。

- (6) a. Bill slept the afternoon away.
b. Bill slept for the whole afternoon.

3. 先行研究とその問題点

この節では、time-away 構文に関する先行研究として Jackendoff (1997, 2002)、高見(2007)、西原(2010) を取り上げ、これらの分析の問題点を指摘する。

Jackendoff (1997, 2002) は、問題の構文は、概略、(7a)の統語構造をもち、(7b)の意味構造を持つと分析している。また、time NP-away の連鎖は、構文的イデオロムをなしていると分析している。

- (7) a. [VP V NP [_{Prt} away]]
 b. 'waste [Time NP] heedlessly V-ing'

(7b)の意味分析は、time-away 構文の場合、動詞は統語的主要部ではあるが、意味的には主要部ではなく、様態を表す修飾語句に内包されていることを表している。この意味分析では、「無駄に時間を過ごす」という意味が内包されていることになるが、(8)に示すように、常に「無駄に」という意味が生じるわけではなく問題である。

- (8) a. Shivering the night away in the reeking darkness of the tunnel,...
 (BNC)
 b. People are freezing the night away. (GloWbE US)
 c. ...You may find yourself lying awake, worrying away the night time hours, unable to stop the thoughts running around and around in your mind.
 (GloWbE GB)

(8a)(8b)は、トンネル内の暗闇の中などで「ただ震えて、他に注意をむけることなく一晩を過ごした」という状況を示し、(8c)では「何かを心配して一晩を過ごした」という状況を示している。時間を無駄に過ごしたかどうかは、語用論的に決まり、[VP V NP [_{Prt} away]] の連鎖に内包されているわけではないと考えられる。

Jackendoff の分析の二つ目の問題として「楽しむこと」を本来の目的とする行為動詞が time-away 構文に多く生じることが挙げられる。COCA, GloWbE, Time などのコーパスに見られる動詞を (9) に挙げる。

- (9) dance, waltz, boogie, tango, skank, rock, jazz, rage, sing, party, walk,

surf, skate, ski, pedal, bowl

本来楽しむ活動を目的とする動詞が time-away 構文に生じるという事実は、「無駄に」という意味が必ずしも内包されていないことを示している。

三つめの問題として、time NP が文末に生じる場合と生じない場合の差別化を Jackendoff の分析では捉えることができない。Jackendoff の分析は、(10b) (11b) を誤って適格と予測してしまい問題である。後述するが、(10b) (11b) が不適格であるのは、主語の「意図性」と関連がある。主語が予め目的をもって活動を行う場合、time away 構文では [V+time NP+away] の連鎖しか容認されない。

- (10) a. The chef cooked the night away.
b.*The chef cooked away the night.

- (11) a. The author wrote the night away.
b.*The author wrote away the night.

(Nishihara 2010: 188)

次に、高見(2007)の分析の問題点を考察する。高見(2007)は、機能構文論の観点から time away 構文を統一的にとらえようとする分析を行っている。高見(2007)によると、time-away 構文は、(12) に示す制約を満たす場合のみ適格となる。

- (12) time-away 構文の意味的・機能的制約：

time-away 構文は、主語指示物が、非生産的 (nonconstructive) 行為、活動を、時間表現が表す時間全体にわたって行うと解釈される場合に適格となる。

(12) の意味的・機能的制約では、動詞によって表される行為が非生産的な場合にのみ time-away 構文が適格になると分析している。しかしながら、生産的・非生産的の区別の判断をどこに求めるかが明確になっていない点が問題である。

(13)-(15) を見てみよう。

- (13) a. ...I can sit the afternoon away knitting without a list of to dos running through my mind. (GloWbE CA)
b. Mary was too private, Bobby decided. That was the problem. Two years of fucking a prominent man had gotten her used to secrecy, to keeping her

own counsel, to going her own way, to reading her nights in her hermetically sealed aesthetic world,... (COCA)

- (14) a. The chef cooked the night away.
b. ??'The chef cooked away the night. (Nishihara (2010: 190))

- (15) I have Googled / texted the night away.

(13a) では、腰かけて編み物をして時間を過ごすことを表しているが、編み物をすると言う行為が生産的であるのか、非生産的であるのか判断がつかない。同様に、(15) の例が示す二つの行為、インターネットを利用しての情報検索、電子メールなどに文字情報を打ち込む行為は、非生産的かどうか定かではない。他方、(13b) では、密閉された部屋のどこかで読書をして夜を過ごすことを表している。他にすることがないので時間つぶしに読書をするのであれば、その行為は非生産的になるが、Mary was too private.という部分があることから、自分で好んで読書を行っており、この意味では生産的な行為と言えると思われる。(14) の例は、動詞が表す意味によって time-away 構文が生起できる統語的連鎖が選択されることを示しているが、高見の分析では (14) の容認性の差異をとらえることはできない。

最後に、先行研究の一つである西原 (2010) の分析の問題点を考察する。西原 (2010) は、(16)-(17) の例を指摘し、二つの可能な連鎖のうち、V [away][time NP] の連鎖が「無駄に～して時間を過ごす」という意味をもち、この意味と主語の行為の意図性との間に意味的な衝突が生じる場合に容認されない例となることを指摘している。

- (16) (= 10) a. The chef cooked the night away.
b. ??'The chef cooked away the night. (Nishihara (2010: 190))

- (17) a. The author wrote the night away.
b. ??'The author wrote away the night.

しかしながら、V [away][time NP] の連鎖の場合に常に「無駄に～して時間を過ごす」という構図になるわけではない。動詞 idle を例にこの事実を考えてみよう。マクミラン英語辞典によると、動詞 idle は、(18) に示すように、「リラッ

クスして何もしないで時間を過ごす」という意味をもつ。(19)は、V[away][time NP] の連鎖の場合であるが、「月曜日のほとんどの時間をリラックスして何もしないで時間を過ごす」という意味をもち、無駄に時間を過ごしているわけではない。主語が表している人物が意図的に何もせず、リラックスして時間を過ごすことを選択している。

(18) idle: to spend time relaxing and doing nothing
MACMILLAN English Dictionary (2002)

(19) Morse idled away most of Monday in his office. COBUILD (1995)

さらに、(20) では、形容詞 pleasant が time NP を修飾している。この事実は、問題の連鎖の場合でも「楽しみながら時間をゆっくり過ごす」という意味をもちうることを示しており、西原 (2010) の分析は十分でないことがわかる。

(20) Residents were mewing their lawns, washing their cars and otherwise idling away a pleasant, sunny day.

3節では先行研究を概観し、その問題点を指摘した。解決しなければならない問題点は、次の点に求められる。「無駄に～をして時間を過ごす」という意味は、構文の意味ではないと考えられ、どのような状況でこの意味が生じるのか考察しなければならない。次に、生産的・非生産的行為の区別だけでは time-away 構文の容認度の差異をとらえることができない。どのような動詞の意味区分を設定すべきかを考える必要がある。さらに、語順だけでは time-away 構文の容認性をとらえることは不可能である。語順に見られる制約とはいかなるものか検討しなければならない。これらの問いに対する代案を次節で提案することにする。

4. 動詞の意味素性分析と time-away 構文の容認性

4節では、動詞の意味素性として \pm volitional、 \pm self-controllable を仮定し、time-away 構文の容認性、及び構文がとる語順の問題を考察する。ここでは、動詞の意味素性としてプラスのみの指定を受けている動詞、プラス、マイナスの値をとりうる動詞、マイナスのみの指定を受けている動詞に下位分類して考えていくことにする。

動詞の意味素性としてプラス、マイナスの値をとりうる動詞が、+volitional、+self-controllable の場合に S + V + time NP + away の語順になり、-volitional、-self-controllable の場合に S + V + away + time NP の語順になると仮定する。また、-volitional、-self-controllable のようにマイナスの値の指定を受ける動詞については、語順は二つのいずれの語順も可能であり、-volitional、-self-controllable の値の指定を受けることから、自分の意志、及び制御力が及ばないことになり、語用論における概念メタファー<TIME IS A VALUABLE COMMODITY>との相互作用によって結果的に「無駄に時間を過ごす」という意味を持つことになると考える。ここで注意すべきは、動詞が+volitional、+self-controllable の値でも S + V + away + time NP の語順は可能ではあるが、その場合、自分の意志で行為が行われ、楽しんで時間を過ごすことが文脈上担保されなければならない。

ここでの意味素性に基づくと、time-away 構文に生起できる動詞は5種類に分類できる。まず、主語の明確な意図性 (volitionality) を表す talk タイプが存在する。このタイプには、動詞 talk のほかに knit, write, program 等が挙げられる。これらの動詞は、常に意味的に+volitional の値をとり、通例、容認される語順は、S + V + time NP + away の語順である。S + V + away + time NP の語順が容認されるためには、文脈等から「楽しんで時間を過ごす」という意味が保証されなければならない。(21) では、time NP が away の後の位置に生じているが、明らかに主語が時間を楽しんでいることが示されている。楽しんで時間を過ごしているという事実は、3行目の just 以下の文脈から明らかである。

- (21) I think Tisha refilled our glasses at least twice more while T. C. and I talked away the afternoon on his double-wide's porch. I do not think I felt drunk, just a deep, total easing of body and mind, a fine sense of exhausted peace that came of his strong stump whiskey, the view of fields and woods, a tangible cooling of the air as the sky sprouted high, boiling clouds, a perceptible dimming of the harsh light. (COCA)

先に示した動詞の意味素性分析では、高見 (2007)、または、西原 (2010) の分析にとって問題であった例文 (16)-(19) は問題にならない。主語に意図性がある場合は容認される適格な文になり、許される語順は動詞と away が time NP をはさむ語順が基本となる。意味的には、「自らの意図である行為を行い、時間を過ごす」という意味になり、「無駄に」という意味合いはでないことになる。

S + V + away + time NP の語順は、-volitional、-self-controllable の値を動詞がとることになり、本来動詞がもつ意味素性+volitional、+self-controllable の値と意味的衝突が生じることになり、(16b)(17b) のように不適格な文となる。

次に、dance タイプの動詞を考えることにする。このタイプには、dance に加えて pedal などスポーツをすることを表す動詞が入る。動詞 dance は、基本的には「自らの意志でダンスを楽しむ」という意味をもち、+volitional の値をとると考えられるが、人に迫られてダンスをするという場合も考えられる。この場合、-volitional、-self-controllable の値をもつということになる。では、(22) を見てみよう。(22) の例は、それぞれ (23a)(23b) として書き換えが可能である。

- (22) a. We danced the night away.
 b. We danced away the night.
- (23) a. The dancing was so much fun that we forgot about the time.
 b. Although we danced through the night, we had regret at the waste of time.

(22)(23) から明らかのように、動詞 dance が+volitional、+self-controllable の値をとる場合は、意味的に「楽しんでダンスを踊り、時間を過ごす」ことを表し、語順は away を文末に置く語順となる。他方、-volitional、-self-controllable の値をとる場合は、「ダンスを踊り、無駄に時間を過ごす」ことを表し、語順は time NP を文末に置く語順となる。ここでこの分析を支持する別の言語事実を見てみよう。

- (24) a. He danced the night away to forget the hard time he had had.
 b.* He danced away the night to forget the hard time he had had.
 (Nishihara 2010: 189))

- (25) He danced away the night aimlessly / heedlessly.

(24)(25) は、time away 構文の語順と目的を表す節、あるいは副詞句との共起制限に密接な関係があることを示している。これは、dance が+volitional、+self-controllable の値をとる場合、容認される語順が基本的には away を文末に置く語順になり、-volitional、-self-controllable の値をとる場合は、「ダンスを踊り、無駄に時間を過ごす」ことを示すものである。

ここで dance 類の動詞に関しても、talk の場合と同じく注意すべき点があることを指摘しておきたい。(26) の例は、一見すると、away を文末に置く語順をとっていることから、dance が -volitional、-self-controllable の値をとる場合のように見えるがそうではない。(26) は、重さの効果 (weight effects) のために動詞に後続する NP に重い名詞句移動 (heavy NP shift) が適用され、結果的に名詞句を文末に置く語順になっている。動詞がとる意味素性が +volitional、+self-controllable であることに変化はない。この場合、文脈上、楽しむことが保証されないといけませんが、名詞句 festival の存在から踊る行為が楽しむ対象であることがわかり、適格な文となる。

- (26) And so we danced away the remainder of the festival among a patchwork of moving colours. (GloWbE: GB)

続いて、idle タイプの動詞について考察することにする。このタイプの動詞には、idle、loungue、laze、while などがある。まず、各動詞の辞書的意味の確認をすることにする。(27) は、マクミラン辞書に見られる定義である。いずれの動詞もリラックスして時間を過ごすという意味をもっていることがわかる。このことから、このタイプに属する動詞は、常に +volitional、+self-controllable の値をとると考えられる。

- (27) a. idle away: to spend time relaxing and doing nothing.
 b. lounge: to lie, sit, or learn in a relaxed or laze away
 c. laze: to relax and enjoy yourself, doing no work.
 d. while: to spend time to in a relaxed way when you have nothing else to do
 (Macmillan English Dictionary)

+volitional、+self-controllable であれば、基本的な語順は away を文末に置く語順となると考えられるが、マクミラン辞書では、idle away、while away を句動詞として分析し、(28b) に示すように、time NP を文末に置く例を与えている。

- (28) a. idle away: phrasal verb
 b. Morse idled away most of Monday in his office.
 c. while away: phrasal verb
 d. We whiled away the Saturday afternoon sitting by the lake.

(Macmillan English Dictionary)

マクミラン辞書での記述の妥当性を検証するために、COCA を用いて *idle* away* [n*] のコマンドを入れて検索すると、*idle away vacations / hours / June* の 3 用例が見つかる。また、*idle* away* のコマンド検索では、29 例が見つかる。COCA の用例を (29) に挙げる。他方、*idle* the [n*] away* のコマンド検索では、3 例が見つかる。これらの事実は、マクミラン辞書での記述が示すように、*idle* と *away* に強いコロケーションが見られることを示している。

- (29) a. Most days he idles away the morning in his office, refracting ideas into jokes through the great whimsical prism of his mind.
 b. ...she idled the morning away chinking tea and reading in bed,...

これまでの観察をもとに、動詞 *idle* の場合、+volitional、+self-controllable の値をとり、基本語順は S + V + time NP + *away* になるが、動詞と *away* の結びつきが強く、time NP に重い名詞句移動が適用されて S + V + *away* + time NP の語順になると分析できると思われる。

それでは、同じタイプと考えられる *loung*e、*laze* のコロケーションはどうか。*loung*e* *away* のコマンドでは、COCA の用例は (29) に類する例が 3 例見付き、*loung*e* *the [n*] away*、又は *loung*e* [n*] *away* のコマンドではゼロである。

- (30) We've lounged away the morning on a people-free, rapids-free stretch of river in a thickly forested gorge, under cover of damp fog-like drifting through a rain cloud. (COCA)

Google News 検索を行うと、(31a) のように *loung*e と *away* が隣接する語順をもつ用例は多く見つかるが、*loung*e time NP *away* の語順を持つ用例は少ない。このことから、*idle* と同じように、*loung*e は *away* との結びつきが強く、語順も同じ語順をとると考えられる。

- (31) a. We'd cook up a plain but most delicious feast, and *loung*e away the rest of the day under the trees in the camp. (News 24-2016/08/06)
 b. 76 bus (that stops in front of the hotel en route to the Louvre) you may find

you prefer to *lounge the day away* on the cozy rooftop until your home-made, fresh-from-the-market dinner is served on outdoor communal tables.

Huffington Post-2016/03/14

次に、idle と似た意味をもつ動詞 *laze* について見てみる。*laze* に COCA で同じコマンド用いると、*laze* away* が 3 例、*laze* the [n*] away* で 1 例が見つかる。COCA のデータは用例が少なくどちらの語順が優位か判断できない。そこで、Google News での検索を行ってみると、(32) の例が見つかる。どちらの語順でも用例が見つかることから、*laze* は、*idle*、*lounge* と異なり、基本語順は S + V + time NP + away と考えられ、重い名詞句移動の適用は、選択的と考えられる。換言すると、*idle* や *lounge* とは異なり、動詞 *laze* と *away* のコロケーションはそれほど強くないと考えられる。

- (32) a. If you wish to relax, you can lounge by the pool, enjoy sunset cocktails on the front porch, *laze away* an afternoon in one of the hammocks, or play a board game. (Washingtonian.com-2016/07/01)
- b. This four-bedroom property is the spot to *laze away* your days, either by the stunning private pool, or at the gorgeous, pine-laced cove of Platja Fonda, just 10 minutes' walk away. (Telegraph.co.uk-2016/01/21)
- c. Also included in the Valentine's package is breakfast in bed and late check-out so you can *laze the morning away*. (The Independent-2016/02/02)
- d. The massive patio where hula-hoopers and drunken storytellers used to *laze the evening away* has been cleaned up and refitted to host a massive crowd. (Houston Press-2014/05/21)

最後に、*shiver* タイプ動詞を考察する。この種の動詞は、4 節で仮定している意味素性に基づくと、-volitional, -self-controllable の意味素性しかもたないと考えられる。この種の動詞を含む例を (33) として再掲する。

- (33) (= (8))
- a. Shivering the night away in the reeking darkness of the tunnel,... (BNC)
- b. People are freezing the night away. (GloWbE US)

c. ...You may find yourself lying awake, worrying away the night time hours, unable to stop the thoughts running around and around in your mind.

(GloWbE GB)

shiver タイプの動詞の場合、仮定上、問題にしている両方の語順が可能である。無駄に時間を過ごしたかどうかは、語用論における概念メタファー<TIME IS A VALUABLE COMMODITY>との相互作用、あるいは与えられた文脈によって決まると考えられる。

この節では、動詞の意味素性に基づいて time away 構文の語順、及び意味的特徴をとらえる分析を試みた。4 節で議論した内容をまとめたものを (34) に示しておく。⁴

(34)

動詞のタイプ	関与する意味素性	time away 構文における動詞の意味素性と容認される基本語順
talk タイプ	+ volitional, + self-controllable	+ volitional, + self-controllable: V- time NP-away *V-away-time NP (条件付き)
dance タイプ	±volitional, ±self-controllable	+ volitional, + self-controllable : V- time NP-away -volitional, -self-controllable: V-away-time NP
idle タイプ	+ volitional, + self-controllable	V-away-time NP (コロケーションの問題) laze は、V- time NP-away、V-away-time NP
shiver タイプ	- volitional, - self-controllable	V- time NP-away、 V-away-time NP

5. 概念メタファーによる意味と語順

4 節において、動詞の意味素性としてプラス、マイナスの値をとりうる動詞が、-volitional、-self-controllable の値の指定を受ける場合、自分の意志、及び制御力が及ばないことになり、語用論における概念メタファー<TIME IS A VALUABLE COMMODITY> (Lakoff and Johnson (1980 : 8-9)) との相互作用によって結果的に「無駄に時間を過ごす」という意味を持つことになると分析した。この考え方を支持する言語事実を COCA から挙げてさらに考察を加えることにする。

(35) a. I slept away all my life.

- b. I haven't just slept away the afternoon, Rackman thought. I've slept away all of 1972.
- c. But in 2000, their marriage faltered. He virtually drank away the next five years. (COCA)

(35) では、all, the whole, the next five years などとともに time away 構文が用いられ、その場合の語順は V-away-time NP である。語順的にも「無駄に時間を過ごす」という意味合いをもつことになるが、時間の長さが長いことを示す語句が存在することによって、TIME IS A VALUABLE COMMODITY というメタファーと結びつきやすくなり、「無駄に時間を過ごす」という意味合いが強くなると考えられる。また、時間的な長さを強調する語句が存在しなくても、(36) のように、TIME IS A VALUABLE COMMODITY というメタファーに相反する内容の語句が生じると、語順とともに「無駄に」という意味合いが強くなると考えられる。

- (36) a. The cafes around Sidi Bouzid's main square are filled with young unemployed men, sipping away the afternoon, suspiciously watching the circling cars promoting electoral candidates. (COCA)
- b. Americans tend to visualize a London men's club as a bunch of old Blimps who doze away the afternoon in leather chairs, waking up occasionally to curse their gout or the Socialists. (COCA)
- c. An interactive antiterrorism computer game is raging in the video room, card games are being played in the lounge. And, in the silent room, two tired young bodies slump on couches, breathing softly as they sleep away the afternoon. (COCA)

最後に、動詞 waste、piddle、gamble などが time away 構文と同じ語順をとることから、これらの動詞を用いる頻度が高い英語母語話者は、先に述べた概念メタファーを連想しやすくなるという事実に触れておくことにする。

- (37) a. Before taking the class, he said, he had *wasted away his days* cooped up and aimless in his room. (Times Record-2016/06/25)
- b. He piddled his time away.
- c. After gambling the night away, the foursome piled back into the

truck for the drive home.

(COCA)

(37) に示した動詞は、行為とその行為を行うのに要した時間が無駄であることを表している。この種の事実と (38) の動詞 sleep、snooze、nap などの非生産的な活動が結びつくと、問題にしている概念メタファーと結びつきやすくなると考えられる。

(38) He slept / snoozed / napped the afternoon away

6. 結語

この論考では、time-away 構文の統語的、意味的特徴を確認したあと、先行研究を概観し、問題点を指摘した。また、動詞の意味素性から動詞の分類を行い、time-away 構文の統語的、意味的特徴をとらえる代案を提示した。

注

- ¹ 本稿は、第41回英語コーパス学会（愛知大学）の口頭発表原稿に加筆・修正を加えたものである。
- ² 後述するように、二つの形式が常に可能なわけではないことに注意する必要がある。
- ³ Jackendoff (2002) は、time NP が tough 構文の主語位置に生じること、VP 構成素であるかどうかを示す do so テストも適用可能であることを指摘している。これらの例は、動詞の目的語と同じように、time NP が VP 内要素であることを示すものである。
- ⁴ この論考では、統語的派生について論述していないが、西原 (2010) において提案したものと同一派生を仮定している。詳しくは、西原 (2010) を参照。

参考文献

- Croft William and D. Alan Cruse (2004) *Cognitive Linguistics*, Cambridge University Press, Cambridge.
- Jackendoff, Ray (1997) "Twistin' the Night away," *Language* 73, 534-559.
- Jackendoff, Ray (2002) "English Particle Constructions, The Lexicon, and the Autonomy of Syntax," in *Verb-Particle Explorations*, ed. N. Dehe, R. Jackendoff, and S. Urban, Mouton de Gruyter, New York.
- Lakoff George and Mark Johnson (1980) *Metaphors We Live By*, University of Chicago Press, Chicago.
- 西原俊明 (2010) 「Time-away 構文について」 *JELS* 27, 187-196.
- 高見健一 (2007) 「形式と意味のミスマッチーTime-away 構文を中心に」『英語青年』152. 11 :

642-645.

コーパス

Corpus of Contemporary American English (COCA)

British National Corpus (BNC)

The Corpus of Global Web-based English (GloWbE)

辞書

Macmillan English Dictionary